



#008
2017 Spring

医師として広島県を
“えっと”楽しむマガジン

ETTO

Feature | 特集
町・山・島を支える
地域医療の現場！
広島県。地域医療最前線 ～診療所編～



【えっと】
広島県



広島県地域医療支援センター
(公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)
が発行する、
医学生・研修医・若手医師に
広島県の医療をPRするための
広報冊子です。
今号は安佐北区・芸北地域・生口島の
3つの地域の病院に密着して
それぞれが目指す地域医療を
特集します。

医師として広島県を
“えっと”楽しむマガジン
ETTO
【えっと】 2017 Spring
#008
広島県地域医療支援センター (公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)

高度医療から地域医療まで充実した 広島で臨床研修をしませんか



広島県には24の臨床研修病院があり、環境も病院規模も様々です。
多彩な臨床研修病院が提供するプログラムは、
必ずやあなたのニーズにマッチした研修を提供してくれることでしょう。

臨床研修病院合同説明会 (レジナビフェア) などへの出展



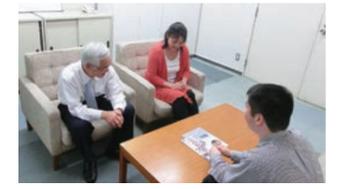
広島県では、できるだけ多くの研修医に
県内で臨床研修をしていただきたいと願っ
ています。
県内の臨床研修病院が共同で、合同説
明会「レジナビフェア」・「マイナビレジフェス」
に出展し、お揃いの真っ赤なベストで医学生
の皆さんをお迎えしています。
充実した臨床研修を受けられる広島
にぜひお越しください。

若手・女性・ベテランの 活躍支援



県内で活躍する医師のために様々な
支援を行っています。
若手医師への医療機関横断的な研
修支援、女性医師が働きやすい勤務環
境整備・復職研修支援・子育て支援、
定年勤務医等への求職支援など、やり
がいをもって活躍できる環境づくりを進
めています。

広島県での就業支援



広島県での就業をお考えの医師の方
に、無料の職業紹介事業の許可を得
て、UIJターンの支援をしています。
ウェブでの求人情報の提供のほか、
個別のご相談にも対応しています。
具体的な時期が決まっていなくても構
いません。お気軽にご相談ください。

暮らしやすく楽しめる広島

広島県は、「日本の縮図」といわれているように、経済・社会・文化・商業・工業の様々な要素をもち、「都市」としての機能を有しながら、「自然(海・山)」も豊富。最近ではサイクリストの聖地として「しまなみ海道」に来られる方も増えています。さらに全国・県内移動のアクセスに優れているのも特徴。どんな人にも住みやすく、自分らしく自由に暮らすことができる、贅沢な地なのです。



地域医療への扉

ふるさとドクターネット広島

広島県地域医療支援センター(公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)

<http://www.dn-hiroshima.jp>



広島県地域医療支援センターは、広島県・県内全市町・広島県医師会・
広島大学が協働し、広島県の地域医療の確保等のため、平成23年7月に
設置された公的団体です。

わたしたちは、広島県内の地域医療の確保に向けて、医師の地域偏在解
消のための配置調整や医師確保、人材育成等に総合的に取り組んでいます。

医師の立場からの助言ができるよう、自治医科大学出身の内科医師も勤務し
ており、みなさまのご相談やご希望を伺っています。



【お問合わせ】 広島県地域医療支援センター (公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)
〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目2-3 広島県医師会館4階
電話：082-569-6491 FAX：082-569-6492 E-Mail：iryuu@hiroshima-hm.or.jp



地域医療の現場を知ること 医師という仕事の楽しさを知ること

編集制作 【民間医局】株式会社メディカル・プリンシプル社
ArtDirector : 藤又シゲカズ Writer : さくまえり Photographer : 小室聡一郎



広島の町を支える診療所 中西内科

年内に定期検診や薬をもらおうと、町の人々で賑わう年末の中西内科。
今日も多くの患者さんが院長のもとを訪れていた。
「診察室へ入って。当院の患者さんは賑やかなのに慣れてますから」と、中西院長。
今日は診察時間に、日頃の様子を見せていただいた。



中西内科 院長
中西重清 先生
若手医師指導のために開催している症例検討会「中西道場」が人気。60代の今もモットーは「万年研修医」。

「さあ、次の患者さんが来る前に、皆さん、ハイ、チーズ！」
診察室に招かれるなり、バシャリと一枚、私たち取材チームの方が撮影されてしまった。驚いている間に、撮影した画像と、その様子を映した動画が、診察用のパソコンへ瞬時にアップされている。
「今日は、私がやっている地域医療そのままを見てほしい。その鍵となるのがこの電子カルテ。動画と写真を」
「さあ、次の患者さんが来る前に、皆さん、ハイ、チーズ！」
診察室に招かれるなり、バシャリと一枚、私たち取材チームの方が撮影されてしまった。驚いている間に、撮影した画像と、その様子を映した動画が、診察用のパソコンへ瞬時にアップされている。
「今日は、私がやっている地域医療そのままを見てほしい。その鍵となるのがこの電子カルテ。動画と写真を」



地域を支える
中西内科の医療スタッフ

るメモ。子どもたちとの様子、趣味に朝食の定番おかず、味噌汁は即席かどうかまで。さらには、仏壇にお供え物をしてから朝食の支度をする、など個人的な生活様式までこと細かに書かれていた。
「この患者さんは、まだまだ大丈夫かな。『寂しいと感じることは？』という質問には『ない』と答えている。だから、まだ大丈夫。寂しいって感じ始めたなら、家族と一緒に色々考えなきゃいかん」
患者さんの退室後、もう一度映像を見比べながら院長はうなずいた。その後も「今年はどうな一年だったかね？」という質問が始まり、「良いお年をね」と患者さんを見送る。カルテには、実は動画や写真だけではなく、家族の情報や、その人の生まれた年の出来事、自宅の周辺地図など、話題作りにも便利ならゆる情報情報が繋

がっているという。
「日常生活を聞かんといかんのよ。『診断』と言うのは、検査だけじゃつけられないんよ」
家族の変化や、引っ越し先の様子、趣味をきちんと継続できているかなど日常生活のことが、この地域では重要な話題になることがあるという。
「院長は患者さんのことを何から何までご存知。その主治医力に憧れます。すごいのは、患者さんが『どこで死にたいのか』まで知っていることではないでしょうか」と研修医の土井先生。ここへ来て二週間、院長の情報収集に驚かされたと教えてくれた。
「ほら、ちょっと外の声を聞いてみて。楽しそうに看護師に日頃の様子を話しているでしょう」(中西)

確かに外では大きな笑い声かして「和むんよ、ここは」と患者さんたちも口々に話す。
「日本でも国家資格とし

の導入が検討されている「ナース・プラクティショナー(診療看護師)」という存在があるけれど、当院ではすでに問診の多くを看護師が責任を持ってやってくれている。プライマリケアの現場では、医師ができないことがいっぱいあるんですよ。当院は全員が一丸となって一人ひとりを診ているのです」(中西)
診察室での問診も、院長が話したことは横で事務員がパソコンへ即座に入力。診察室には院長以外にも、事務員に看護師、栄養士や研修医がいることもあり、常に多くの人が患者さんと接している。
「院長の主治医力に、それを支える看護師力。多くの患者さんをチームでどう把握し、どう関わっていくかを勉強できました」と充実している様子の土井先生。
「へき地の地域医療もいけれど、ここは町場だから必要としてくれている患者さんが多いのが魅力。笑い声でいっぱい現場を見れば、この仕事の楽しさを体感してもらえるで

しょう」(中西)
私たち取材チームも診察風景を見せていただき、院長が楽しく仕事をやる風景を目の当たりに。そう、誰もが地域医療の楽しさを体感できる診療所なのだ。つた。
「この楽しい現場を多くの若手に見てほしい。いつでも、君たちを待っている！」(中西)



初期研修医 2年目
土井寛文 先生
広島市出身。現在、安佐市民病院の初期研修2年目。この3週間は地域研修で中西内科にて勤務中。



院長と患者さんの会話を
パソコンに即座に入力するスタッフ



中西内科

平成3年に総合内科として開業。最先端の医学知識と技術、きめ細やかな患者さんとのコミュニケーションを大切に、日々治療を行なっている。安佐市民病院、広島市民病院、広大病院の研修医指導にも積極的に携わっている。

〒731-0231
広島県広島市安佐北区亀山4-20-8
TEL: 082-815-1211
E-mail: nshigeki@viola.ocn.ne.jp
<http://www.nakanisi-naika.com>



この地域にとって必要な“視点”を作り
住民の安心を担える医師となれ



広島の山を支える診療所 北広島町 おがはら 雄鹿原診療所

広島駅から山間へ車を走らせることおよそ1時間半。
スキー場に囲まれ、のどかな里山風景が広がる町の中心に、雄鹿原診療所がある。
この芸北エリアは高齢化が顕著に進み、65歳以上はなんと44.6%*。
そこで日夜、住民の暮らしを守るのが所長と、
まもなく赴任4年目を迎える若手医師・亀山先生だ。

*平成27年2月住民基本台帳より

雄鹿原診療所 所長
東條環樹 先生

1996年に自治医科大学を卒業。臨床研修後、三次中央病院、八幡診療所所長を経て現在、北広島町雄鹿原診療所 所長。



大佐山展望台から見た山地の風景

八幡診療所 所長
亀山和也 先生

2010年に自治医科大学を卒業。県立広島病院での初期臨床研修後、吉田総合病院を経て、北広島町八幡診療所 所長に。



地域の医療従事者全員を巻き込んで、地域包括ケアシステムの構築を始めたと言っ。
「私は現在、東條所長がもともと所長を務められた八幡診療所と兼務しながら雄鹿原診療所をお手伝いしていますが、東條所長の土台作りがあつての地域医療だなと感じる場面が多いです。他職種や家族との連携、それぞれの垣根がなくあたたかい土壌がすでにありましたから」(亀山)
大きな病院では、若手医師ができることに限界がある。しかし、ここでは近所づきあいも含めた地域の繋がりの中で、若手でも研修会を開くなど、アプローチできる機会は少なくないと亀山先生。何しろ、医師は二人だけという環境だ。
「地域の一員として暮らし、生活背景を知っていくことが、地域医療の大前提。亀山先生はこの地域の課題を探し、認知症の研修会を開くなど患者さんのバックアップを日頃から行っています」(東條)

それぞれの地域によって課題が違う。「医療の質とは、何なのか。最新技術はもちろん勉強が大事です。しかし、例えばこの芸北エリアで大切なのは「最期まで自分が暮らした家できに穏やかに暮らせるか」ということ」(東條)
どんな地域に働いても、その地域ごとの課題を見つけれられる「視点」をつくるのが大切なのだと東條所長は語る。
「先日、在宅診療を始めるという病院から副院長が見学いらつしやいました。終末期の患者さんのご家族を交えたカンファレンスをご覧になり「最期はどこにするか、随分と賑やかに話せるものですね」と驚かれました。それがこの地域のカンファレンスです」(東條)
全国の在宅での看取りの割合はおよそ11%。この地域は40%前後だというから、稀に見る在宅での看取りができる地域と言える。
「みんな平等に一度は死ぬのになかなか、どこで死ぬか。話す機会がない。でも、私の経験上ではできるなら自宅だと思う人がほとんどです」(東條)

そのためには、家族はもちろん、訪問看護師やケアマネージャーのサポート、そして、患者さんの苦痛に寄り添える医師の存在が不可欠だ。「私はここへ来てから、「第一の相談所」を目指すようになりました。それは、以前と視点が変わったからだ」と

思います」(亀山)

そう語る亀山先生は4年目の残留希望を先日出し、ここに残留することを決めた。

「亀山先生はここで奥さん・お子さんと三人で暮らし、この地域に愛されている。きつと患者さんたちの安心を担うでしょう。そして、安心があれば、次の世代もここへ住みたいと思ってくれます」(東條)
二人三脚での地域医療は、これからも続きそうだ。

「ここへは、よく学生さんも見学に訪れます。保健師さんと一緒に患者さんたちのお花見に行ったり、訪問看護師と一緒に入浴介助をしたり、そのお風呂が五右衛門風呂だったり…。現場でなければ、知れないことを体験してもらいます。いつか働く地域への「視点作り」のきっかけを作ってもらえたら嬉しいですね」(東條)
雪深い芸北エリアの冬は長い。「春になったら、たくさん冬の若手がここを訪れてくれることを楽しみにしています」(東條・亀山)



北広島町
雄鹿原診療所

芸北ホリスティックセンター（医療・保健・福祉部門がある総合施設）内にあり、地域包括ケアの構築に力を入れている。住民の健康を引き受け、患者と家族をサポートする介護の中核としての役割が期待されている。

〒731-2431
広島県山県郡北広島町荒神原200番地
TEL：0826-35-0119
E-mail：holistic@do.enjoy.ne.jp



芸北八幡原の田園風景





住民を包みこむように
心通う医療を目指して



大三島と生口島を結ぶ多々羅大橋

う場所でもありません。いわゆるかかりつけ医と急性期の病院の間を繋ぐ役目もできて、ちよつとほかにはない立ち位置の診療所と言えるのではないのでしょうか。

大西：研修医や学生さんが来ると、「小さな病院みたいですね」と、言ってくれることが多いですね。もともと病院だから当然と言えば当然だけれど、誇らしいな。

小林：外来へ来る患者さんに関しては、生活習慣病などが悪くならないように診る予防医学が主体であり、「治す」というアプローチよりは、どうしたらよりよく生活できるかを考える現場。それなのに、入院できて、CTや内視鏡など最新設備にも力を入れていきますから、まさに小さな病院。今後、専門医として大きな病院で働く若手にとっても、どんなところから患者さんが紹介されて来るのかということイメージする一つの例として面白いのではないのでしょうか。

大西：地域医療の現場を知っている



医師が、患者さんの受け入れ先に増えてくれると安心ですね。それに、この島の患者さんたちってあたたかいから、若手の研修先としても、働きやすいと思います。

小林：ここは公立ですし、私たちは公務員の立場ですから贈り物はいただけないとお話しても、病院の玄関先によくみかんが置かれていますよね(笑)

大西：そうだね。こういうあたたかい島だから、患者さんが急性期の治療を終え、「やっぱり最期は島で過ごしたい」という気持ちがよくわかるよね。

小林：島で生まれ育った住民の皆さんのために、この残されたベッドをどうするか、この診療所をどう継続するかが使命であり、今後の課題でしょうかね。

大西：人口は減る一方だし、私たちは拡大していくことを目指せない。ただ、いざというときの受け入れ先として、しっかりと存続していきたいよね。

小林：平屋造りの小回りが効く施設ですし、看護師さんの数も少なくないので、「ここにお願ひしてよかった」と患者さんだけでなく、ご家族におっしゃっていただけたときは嬉しくて。

大西：私も同じ気持ちです。患者さんもよくハグしてくれたり、手を握って「ありがとう」とおっしゃったり。この島の医療は、人と人との繋が

広島の島を支える診療所 尾道市立市民病院附属 瀬戸田診療所

しまなみ海道を抜け、穏やかな海と柑橘畑が見えてくる。
ここは広島県の離島、生口島。
レモンやみかんなどの柑橘類がたわわに実る豊かな島で、
有床の診療所で働く医師がいる。
今日は、その日頃の様子を聞いてみよう。



瀬戸内レモン。生口島は日本一のレモン生産の島



瀬戸田診療所 所長
大西 毅 先生

「県立瀬戸田病院」時代から、市立の診療所への変遷を見ながら12年間勤務。現在、所長を務める。

大西：ここ、瀬戸田診療所の前身は「県立瀬戸田病院」。市の運営に代わり、「病院」から「診療所」へと形態を変えてからも病院機能の一部やベッドが残ったことで特徴的な診療所となりました。小林先生は学生時代の実習や、医師不足の時期に半年間赴任してくれていたから、もうすっかり慣れてきているね。

小林：学生時代から大西先生にお世話になってますね。ここは、ベッドがあることはもちろん、訪問診療で生口島全域をカバーしていますから、島全体が病床。と思って働いています。

大西：昔の五人体制の頃とは違い、今は二人きり。救急は一次しか診られないことは、実は残念に思っています。ただ、有床だから時間外の対応もできるし、緩和ケアも我ながら進んでいるなと思っています。しまなみ海道が通ってからは、急性期の患者さんを尾道に安心して送れますし。

小林：だからこそ、島の患者さんが尾道市民病院などで治療を終え、自宅へ戻る前に一時的に利用してもら

りですね。

小林：例えば、90歳のおばあちゃんが肺炎になったときに、95歳のおじいちゃんを置いて尾道に入院したのかどうか。そのときに、ここを選択できる余地を残していきたい。

大西：私たちも一人ではいい医療ができないように、みんな一人では生きていけないんだよね。

小林：カンファレンスでも、病名はほとんど話題に上がらなくて、病気を持った人とその周りの人々の話をしています。

大西：常に、病気ではなく、人を診ながら包括的にサポートしないとね。

小林：患者さんを包む一員として、この診療所を続け、心が通う医療を目指していきたいですね。

大西：若手の皆さんには、この診療所のありのままの姿を見ていただけたらと思っています。

二人：ぜひ、一度見に行ってください！



診療所から徒歩約25分の向上寺



瀬戸田診療所 医師
小林 愛沙 先生

県立広島病院で初期研修後、吉田総合病院や庄原赤十字病院、公立みつぎ総合病院を経て、平成28年より赴任。



尾道市立市民病院附属
瀬戸田診療所

平成21年4月開業。その後、平成24年度に新診療所を新築整備。それに伴い、レントゲンやCT、内視鏡、エコーなど医療設備を拡充。有床診療所ならではの地域医療を体感することをテーマに、見学会を開催している。

〒722-2415
広島県尾道市瀬戸田町中野400番地
TEL：0845-27-2161
E-mail：setoda.shinryo@city.onomichi.hiroshima.jp
http://www.onomichi-hospital.jp/setoda_clinic/